

## 事業概要

<b>団体名称</b>	代表団体: 特定非営利活動法人泉京・垂井 協力団体:
<b>実施規模</b>	□地域限定のプログラム: 1,000万円未満/3年以内に完了するもの ■全国展開のプログラム: 1,500万円未満/3年以内に完了するもの
<b>実施期間</b>	2021年2月～2024年1月(3年間)
<b>実施場所</b>	岐阜県不破郡垂井町ならびに揖斐郡揖斐川町を中心とした揖斐川上中流域のほか、現場実習オンライン・フィールドワークの一部を京都府桂川上流域、福岡県矢部川上流域で実施する。
<b>タイトル</b>	揖斐川流域で学ぶローカル・ガバナンス(地域のお作法)発見方法
<b>目的</b>	開発途上国で住民主体の地域開発を進める上では、地域コミュニティを理解することが不可欠である。特に重要なのはローカル・ガバナンスに関する理解である。ローカル・ガバナンスの多くは、明文化されていないことが多いが、地域の人々にとっては最も重要なものであり、何がそれに該当するのか、どういう形でその内容を理解するのか、それをうまく活用しながら地域の合意形成にどうやって参画していくのか、その方法を知ることがこのプログラムの目的である。途上国の地域コミュニティと同質のローカル・ガバナンスが存在する地域で、ローカル・ガバナンス発見方法の習得を図ることで、地域コミュニティ理解を深め、途上国の住民主体の地域開発を円滑に進めることのできる人材を育成する。
<b>概要</b>	以下プログラムを6カ月間かけて行い、3年間で計3回実施する。 ① 講義(オンライン)・・・途上国と日本のローカル・ガバナンスの共通項や重要性、メタファシリテーション入門などを学び、現場実習に備える。 ② 現場実習導入編(オンライン・フィールドワーク)・・・日本の地域社会の抱える問題を体感しながら、ローカル・ガバナンスの重要性をオンラインで学ぶ。 ③ 現場実習・・・揖斐川流域の地域の人たちと対話するプロセスを経験しながら、ローカル・ガバナンスの発見方法を学ぶ。 ④ オンライン相談・・・①～③の受講者からオンライン相談を適宜受ける。一連の講義、現場実習で得られた「ローカル・ガバナンス発見方法」を試行する場を紹介し、各自がフィールドで活かす方法を構想する。
<b>受講対象者及び定員</b>	・NGO・NPO スタッフ ・JICA 海外協力隊(OB、OGも含む)、地域おこし協力隊(OB、OGも含む) ・開発コンサルタント等職員 ・上記を志向する者 ・高校生、大学生、大学院生 ・①と②は定員各回50名、③は定員15名程度、②の参加は①のプログラム受講者を前提とはしない、③の参加は①と②両プログラムの受講者を前提とする。
<b>到達目標</b>	・ローカル・ガバナンスの重要性を知る。 ・ローカル・ガバナンスとは何かを理解する。 ・ローカル・ガバナンスを現場で習得するための方法を理解し、異なる地域コミュニティでの適応策を見つける。 ・ローカル・ガバナンスを習得するための実践計画を立案する。 ・全行程を終了し、報告書を提出した修了者には修了証を発行する。
<b>到達目標を測る指標</b>	・現場実習において地域の人たちとの対話のプロセスを通じて発見したローカル・ガバナンスの数と内容 ・受講者のフィールドに即したローカル・ガバナンス習得の実践計画の立案数と報告会での発表内容 ・修了証の発行数